補　章

「便秘外来」について

便秘外来とは

便秘や下剤依存症の治療を受けるなら、「便秘外来」を受診するのが一番です。

便秘外来はいわゆる専門・特殊外来のひとつです。こうした外来は標榜科（内科や外科など、病院や診療所が外部に広告できる診療科名のこと）ではありませんので、看板などで見つけるのは難しいのが現実です。

私の知る範囲内では、肛門科主体の病院やクリニックで「便秘外来」を行っているところがいくつかあります。探す場合は肛門科に問い合わせるのがいいでしょう。ちなみに、私が以前勤務していた松島クリニック（神奈川県・横浜市）では、私が「便秘外来」を担当していましたが、現在は同じグループ内の病院で、肛門科が中心の松島病院（同・横浜市）に移行しています。

一方、大学病院をはじめとした大規模な病院で便秘外来を行っているところは、ほとんどないのが現状です。これは、重篤な病気に比べると便秘は軽く見られること、そもそも便秘単体では病気として認知されないこと、下剤を処方する以外の効果的な治療法が確立されておらず、かといって生活習慣の見直しなどの指導が時間的にできないからなど、さまざまな

理由によるためと考えられます。

また、肛門科よりも、胃腸科や消化器科のほうが、比較的便秘に関しては専門なのでは？と考える人もいるでしょう。しかし、胃腸科や消化器科で便秘外来を行っている施設は、ないわけではありませんが、必ずしも多いとはいえません。

厳密にいえば、このような科では便秘は診てもらえるのですが、それはあくまでも、がんやポリープをはじめとした便秘に潜んでいるほかの病気を発見するためのきっかけにすぎません。私も当初はそうでしたが、一般の胃腸科や消化器科の医師にとって重要なのは、大腸がんや大腸ポリープの発見だからです。

それだけに、異常が見つからなければ、下剤を投与され、「様子を見てください」で終わってしまうことになります。そして下剤で症状が軽減し、再診となったとき、おそらくは下剤を再度、処方されて、患者さんが「もういらない」というまで、下剤を投与し続けることになるでしょう。何度もいうように、排便力の衰えや下剤依存症という問題が非常に重要であり、その悩みを抱えている人が多いことに気づいている医師は多くありません。

こうした点を踏まえ、慎重に便秘外来を探しましょう。インターネットを使い、ホームページを参考に選んでいくのもよいと思います。